

さいたま市立大原中学校 学校だより



新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第6号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和7年10月1日発行

ご先祖様 in 大原中

校長 越智 宏明

9月22日、生徒会役員選挙が行われました。それぞれの立候補者の演説を聞いていて、そのどれもが、これまで聞いたことがないような真剣さで溢れていたことに驚かされました。誰もが本気でこの大原中学校を更に良い学校にしたいと思っていることが痛い程伝わってきました。また、その立候補者の応援演説に立った生徒たちのスピーチも皆立派なものでした。この立候補者なら本当にこの学校を変えてくれると信じきっているその思いがしっかりと現れていました。結果として、今回の選挙では無効票もゼロだったそうです。これは私の長い教員生活でも初めての出来事でした。そしてそれは、とりもなおさず、投票した生徒たち全員がこの選挙に真摯に向き合った証明であることは、間違いない事実です。

ではなぜ、今年の生徒会役員選挙がこんなにも「真剣勝負」の場となったのでしょうか？

それは、生徒たちが、「学校は生徒たちの力で変えられる」ことを実感しはじめているからだと思います。昨年度からスタートした「大原中未来創造プロジェクト」により、生徒たちの手による数々の学校改革が行われてきました。新制服の決定。生徒が業者にプレゼンを行ったなどという話は聞いたことがありません。また実際に何着もの試作品を作っていたら、一切の妥協がない話し合いが何度も行われました(お陰で私が自腹で大量の試作品を購入するハメになりましたが…笑)。更に通学バックの自由化、体育着の着用の仕方、ジャージ登校のルール改変など、その成果たるや枚挙に暇がありません。

そうした先輩たちの姿を見て、今の大原中生の中で、「学校のルールなんて、所詮生徒たちには変えられない」と思う人はいないと思います。むしろ、自分だったら、今度はここをこうしたいという新たな創造力が次から次へと芽生え、それがあの生徒会役員選挙の熱量につながったのではないのでしょうか？

話は変わりますが、先日、私の父の故郷である愛媛県まで先祖の墓参りに行ってきました。現在は今治市という大きな市に編入されていますが、かつては越智郡朝倉村という名前だった地で、村人の大半が「越智さん」を名乗る小さな村でした。既に田舎の家は人手に渡り、今は山の上に墓があるだけなのですが、私は一年に最低一回はこの場所の掃除とお参りに行っています。ここに眠る私の祖父をはじめとするご先祖様に近況を報告する里帰りのようなものです。同時に今の自分は、数多くの「ご先祖様」たちが歩んできた人生の、その延長線上にいるのだということを実感するためでもあります。

数多くの「ご先祖様」と言いましたが、もし父親と母親が出会わなかったら、その前に祖父と祖母が出会わなかったら、…と、その中の誰か一人でも違った生き方をしたり、別の場所に行ったりといった気まぐれを起こしていたら、間違いなく自分は今この場所にいないわけです。そう考えると数えきれない数の「ご先祖様」がつないできた人生の結果が今の自分の人生なのではないかと考えています。そしてその自分の人生を、またこの後に生まれてくるであろう数限りない子孫たちにつないでいくことになるのではないのでしょうか？

この秋からNHKで始まった連続テレビ小説「ばけげん」の主人公のモデルは、ギリシャ生まれのアイランド人ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)です。明治の開国間もない日本に単身やって来て、日本の魅力に惹かれ、日本人よりも日本人の心をもつと称された人物でもあります。そのハーンは、自身の著書「知られざる日本の面影」の中で、日本人が祖先を敬う心について、大変合理的な考えであると論じています。神様の存在を信じるかどうかは別として、人は間違いなく祖先から生まれてきたのであり、その祖先のお陰で自分の人生が成り立っているのは間違いのない事実なのだというのです。

この「ご先祖様」という考え方は、学校にも当てはまると思います。大原中学校の卒業生数はこの3月で、丁度2万人を超えました。この2万人の先輩たちが歩んできた学校生活の延長線上で今の大原中学校の生活が成り立っている訳で、そして今の生徒の皆さんがどんな学校生活を送るかで、これからの大原中学校の在り方が変わってくるのです。そして、今その「変わってくる」場面をリアルに目撃していると言えるでしょう。

つまり、生徒の皆さんは、この「大原中学校の歴史」そのものなのです。皆さんの生き方がこの学校の未来を創っていくのです。やがて、この大原中学校の「ご先祖様」となる時のために、更に充実した学校生活を過ごしてもらいたいと思います。

そして、機会があれば是非、お家のお墓参りに行って、ご先祖様に近況報告をしていただくことをお勧めします。



生徒会役員選挙では立候補者たちの「学校をよくしたい!」という思いがよく伝わりました。